

### 第3章 医師・歯科医師・薬剤師調査

#### 1 医師

平成20年末現在の医師の届出数は1,911人で、前回調査時の平成18年から28人減少した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は1,801人で総数の94.2%を占め、前回に比べ25人減少したが、構成割合には増減はなかった。介護老人保健施設の従事者は22人で前回に比べ2人減、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は73人で前回に比べ4人増、その他の者は15人で5人減であった（表3-1）。

表3-1 業務の種類別にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成20年	平成18年		平成20年	平成18年
総 数	1,911	1,939	△ 28	100.0	100.0
医療施設の従事者	1,801	1,826	△ 25	94.2	94.2
病院の従事者	1,162	1,196	△ 34	60.8	61.7
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	22	26	△ 4	1.2	1.3
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	841	865	△ 24	44.0	44.6
医育機関附属の病院の勤務者	299	305	△ 6	15.6	15.7
臨床系の教官又は教員	163	164	△ 1	8.5	8.5
臨床系の教官又は教員以外の従事者	136	141	△ 5	7.1	7.3
診療所の従事者	639	630	9	33.4	32.5
診療所の開設者又は法人の代表者	488	478	10	25.5	24.7
診療所の勤務者	151	152	△ 1	7.9	7.8
介護老人保健施設の従事者	22	24	△ 2	1.2	1.2
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	4	4	-	0.2	0.2
介護老人保健施設の勤務者	18	20	△ 2	0.9	1.0
医療施設・老人保健施設以外の従事者	73	69	4	3.8	3.6
医育機関の臨床系以外の勤務者又は大学院生	36	35	1	1.9	1.8
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	6	5	1	0.3	0.3
行政機関又は保健衛生施設の従事者	31	29	2	1.6	1.5
行政機関の従事者	16	18	△ 2	0.8	0.9
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	12	8	4	0.6	0.4
産業医	3	3	-	0.2	0.2
その他の者	15	20	△ 5	0.8	1.0
その他の業務の従事者	2	2	-	0.1	0.1
無職の者	13	18	△ 5	0.7	0.9
不 詳	-	-	-	-	-

平成 20 年の人口 10 万対医師数は 263.6 人で、前回の 263.1 人に比べて 0.5 人上昇した。人口 10 万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和 54 年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移しており、その開きは年々大きくなってきている（図 3-1）。

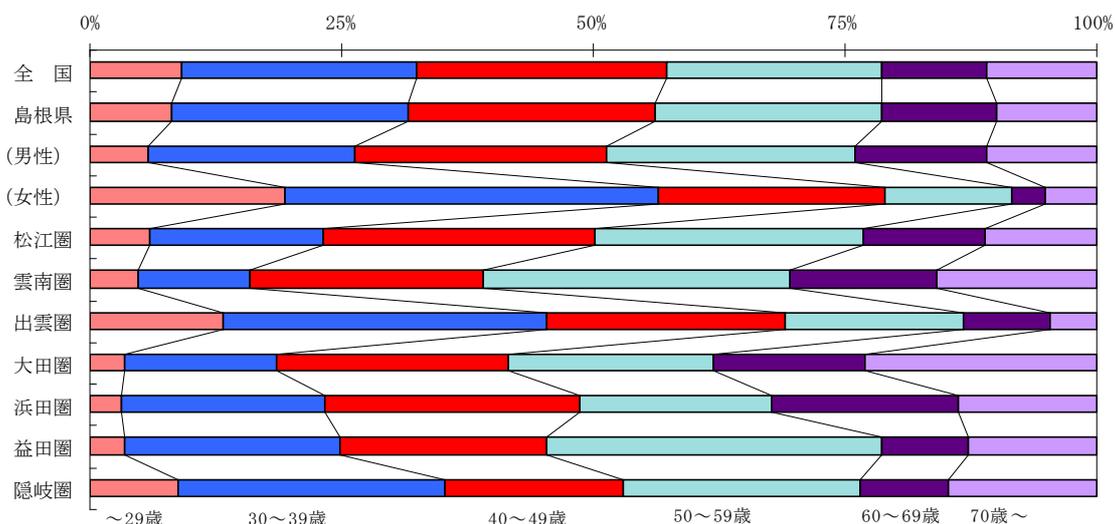
図 3-1 医師数及び人口 10 万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では 40 歳代が最も多く 24.5%で、ついで 30 歳代が 23.4%を占める。全国の割合と比べると、ほぼ同様の年齢構成となっている。男女別に見ると、男性は 40 歳代が最も多く 25.0%で、ついで 50 歳代が 24.7%を占める。女性は 30 歳代が最も多く 37.1%で、ついで 40 歳代が 22.5%を占める。

2 次医療圏別に見ると、出雲圏が他の医療圏に比べて 20 歳代及び 30 歳代の割合が高い。70 歳以上の割合が最も高いのは大田圏で、23.0%を占める（図 3-2）。

図 3-2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を10年ごとにみると、昭和50年は45～49歳、昭和61年は25～29歳、平成8年は30～34歳、平成18年は45～49歳が最も多い年齢階級となっている。平成20年をみると、平成18年と比べ、25～29歳及び35～49歳において減少し、50～54歳の階級で増加している（図3-3）。

図3-3 医師の年齢構成の年次推移

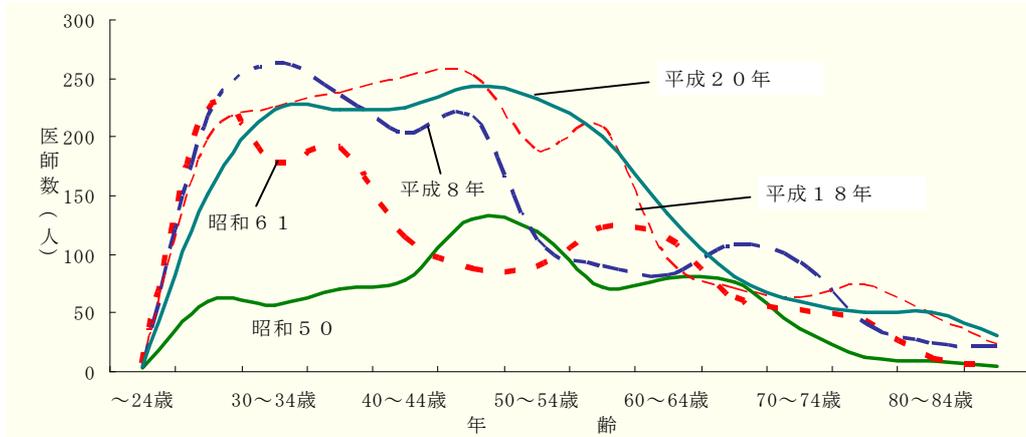


表3-2 診療科（主たる）名別にみた医療施設従事医師数

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く445人で24.7%を占める。ついで、整形外科が134人で7.4%、外科が103人で5.7%を占める。平成18年と比較すると医師数が最も増加した診療科目は消化器内科（胃腸内科）で15人増、最も減少したのは外科（乳腺外科、消化器外科を含む）で15人減となっている（表3-2）。

	平成20年		平成18年		増減数(人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医師数	1,801	100.0	1,826	100.0	△ 25
内科	445	24.7	489	26.8	} △ 8
腎臓内科	6	0.3	・	・	
糖尿病内科(代謝内科)	17	0.9	・	・	
血液内科	13	0.7	・	・	
感染症内科	-	-	・	・	
呼吸器内科	25	1.4	26	1.4	△ 1
循環器内科	59	3.3	61	3.3	△ 2
消化器内科(胃腸内科)	98	5.4	83	4.5	15
神経内科	43	2.4	46	2.5	△ 3
皮膚科	53	2.9	48	2.6	5
アレルギー科	-	-	1	0.1	△ 1
リウマチ科	10	0.6	9	0.5	1
小児科	97	5.4	104	5.7	△ 7
精神科	100	5.6	94	5.1	6
心療内科	5	0.3	2	0.1	3
外科	103	5.7	135	7.4	} △ 15
乳腺外科	3	0.2	・	・	
消化器外科(胃腸外科)	14	0.8	・	・	
呼吸器外科	9	0.5	11	0.6	△ 2
心臓・血管外科	15	0.8	17	0.9	△ 2
泌尿器科	47	2.6	51	2.8	△ 4
肛門外科	-	-	-	-	-
気管食道外科	-	-	-	-	-
脳神経外科	35	1.9	40	2.2	△ 5
整形外科	134	7.4	140	7.7	△ 6
形成外科	14	0.8	8	0.4	6
美容外科	1	0.1	-	-	1
眼科	65	3.6	61	3.3	4
耳鼻いんこう科	52	2.9	54	3.0	△ 2
小児外科	4	0.2	4	0.2	-
産婦人科	66	3.7	58	3.2	8
産科	-	-	5	0.3	△ 5
婦人科	5	0.3	13	0.7	△ 8
リハビリテーション科	24	1.3	23	1.3	1
放射線科	40	2.2	45	2.5	△ 5
麻酔科	56	3.1	52	2.8	4
病理診断科	10	0.6	9	0.5	1
臨床検査科	3	0.2	・	・	…
救急科	14	0.8	13	0.7	1
臨床研修医科	92	5.1	99	5.4	△ 7
全科	3	0.2	2	0.1	1
その他	19	1.1	22	1.2	△ 3
不詳	2	0.1	1	0.1	1

注：標ぼう診療科名の改正の影響により、単純な比較はできないが、増減数の算出にあたり便宜上、上記のように区分けた。

## 2 歯科医師

平成 20 年末現在の届出歯科医師数は 400 人で、前回調査時の平成 18 年から 2 人増加した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で 97.3%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が 64.3%で、診療所の勤務者が 23.0%である。平成 18 年と比べると、病院の従事者は 5 人増加（構成割合は 1.2 上昇）、診療所の従事者は 2 人増加（構成割合は 0.1%上昇）した（表 3-3）。

表 3-3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成 20 年	平成 18 年		平成 20 年	平成 18 年
総 数	400	398	2	100.0	100.0
医療施設の従事者	389	382	7	97.3	96.0
病院の従事者	40	35	5	10.0	8.8
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	22	18	4	5.5	4.5
医育機関附属の病院の勤務者	18	17	1	4.5	4.3
臨床系の教官又は教員	5	5	-	1.3	1.3
臨床系の教官又は教員以外の従事者	13	12	1	3.3	3.0
診療所の従事者	349	347	2	87.3	87.2
診療所の開設者又は法人の代表者	257	258	△ 1	64.3	64.8
診療所の勤務者	92	89	3	23.0	22.4
老人保健施設の従事者	-	-	-	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	4	3	1	1.0	0.8
医育機関の臨床系以外の勤務者または大学院生	1	1	-	0.3	0.3
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	-	-	-	-	-
行政機関又は保健衛生施設の従事者	3	2	1	0.8	0.5
行政機関の従事者	2	2	-	0.5	0.5
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	1	-	1	0.3	-
その他の者	7	13	△ 6	1.8	3.3
その他の業務の従事者	-	2	△ 2	-	0.5
無職の者	7	11	△ 4	1.8	2.8
不 詳	-	-	-	-	-

平成 20 年の人口 10 万対歯科医師数は 55.2 人で平成 18 年の 54.0 人に比べて 1.2 人増加した。年次推移をみると、緩やかな増加傾向にあるものの、全国平均に比べてかなり低くなっており、平成 20 年は全都道府県中第 45 位であった（図 3-4）。

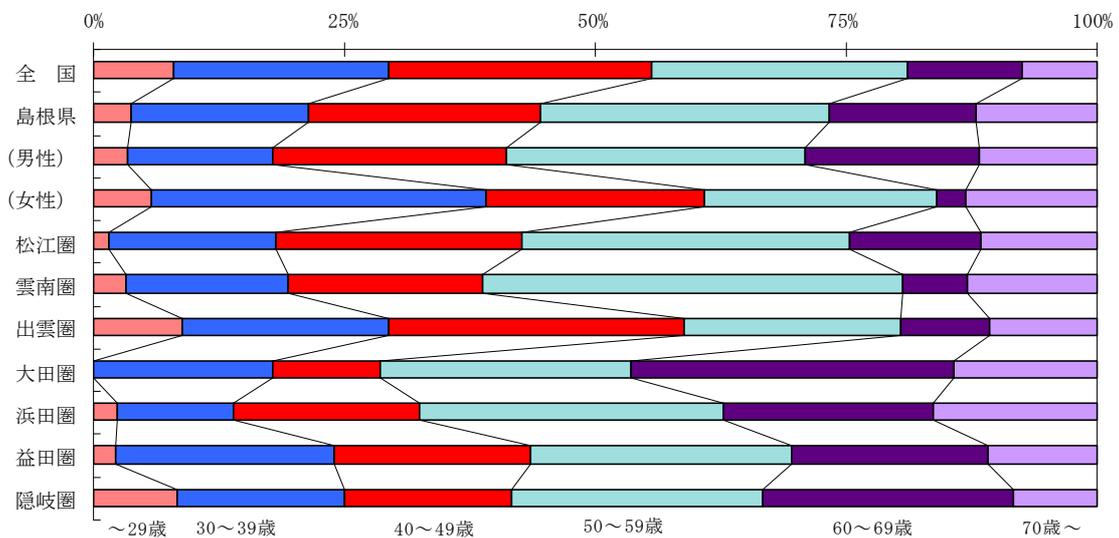
図3-4 歯科医師数及び人口10万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて20歳～40歳代の占める割合が低く、50歳代以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性の方が20歳～30歳代の占める割合が高く、男性の方が40歳～60歳代の占める割合が高い。

2次医療圏別にみると、出雲圏が他の医療圏に比べて49歳以下の割合が高く、半数以上の58.8%を占める。50歳以上の割合が最も高いのは大田圏で71.4%を占める（図3-5）。

図3-5 歯科医師の年齢別割合



### 3 薬剤師

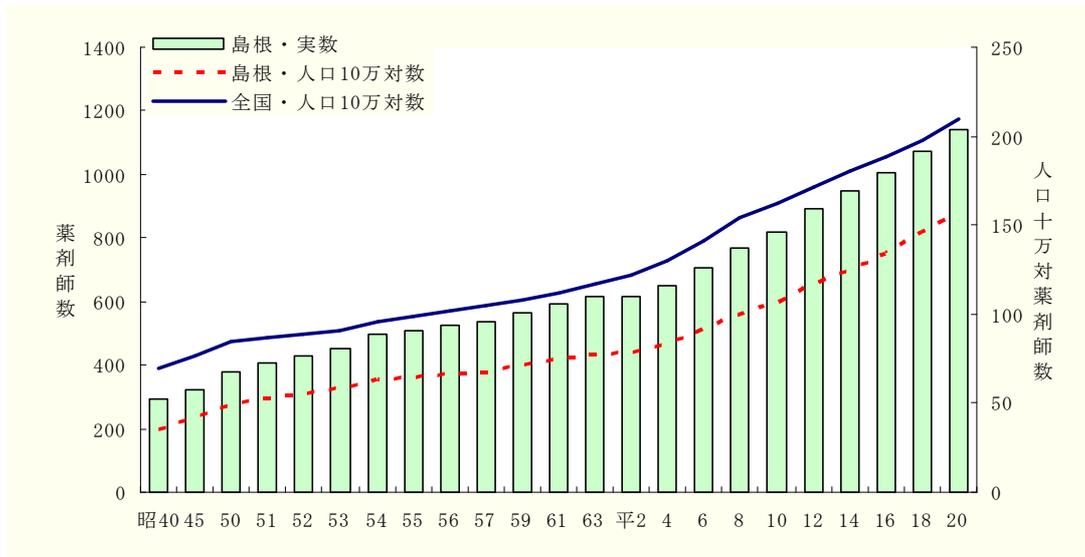
平成 20 年末現在の届出薬剤師数は 1,143 人であり、平成 18 年から 68 人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者が 610 人（構成割合は 53.4%）で、平成 18 年から 52 人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が 320 人（構成割合は 28.0%）となっており、平成 18 年から 6 人増加している。薬局及び病院・診療所の従事者が全体の 81.4%を占めた（表 3-4）。

表 3-4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成 20 年	平成 18 年		平成 20 年	平成 18 年
総 数	1,143	1,075	68	100.0	100.0
薬局の従事者	610	558	52	53.4	51.9
薬局の開設者又は法人の代表者	111	122	△ 11	9.7	11.3
薬局の勤務者	499	436	63	43.7	40.6
病院・診療所の従事者	320	314	6	28.0	29.2
病院・診療所で調剤業務に従事する者	308	297	11	26.9	27.6
病院・診療所で検査業務に従事する者	-	1	△ 1	-	0.1
病院・診療所でその他の業務に従事する者	12	16	△ 4	1.0	1.5
大学の従事者	9	10	△ 1	0.8	0.9
大学の勤務者（研究・教育）	9	7	2	0.8	0.7
大学院生又は研究生	-	3	△ 3	-	0.3
医薬品関係企業の従事者	117	99	18	10.2	9.2
医薬品製造業・輸入販売業（研究・開発・そ	39	30	9	3.4	2.8
医薬品販売業（薬種商を含む）に従事する者	78	69	9	6.8	6.4
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	28	25	3	2.4	2.3
その他の者	59	69	△ 10	5.2	6.4
その他の業務の従事者	13	17	△ 4	1.1	1.6
無職の者	46	52	△ 6	4.0	4.8
不 詳	-	-	-	-	-

平成 20 年の人口 10 万対薬剤師数は 157.7 人で、平成 18 年から 11.8 人増加した。年次推移をみると年々上昇しているが、全国平均と比べてかなり低くなっており、平成 20 年は全都道府県中第 42 位であった（図 3-6）。

図3-6 人口10万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは30歳～39歳で24.1%、ついで50歳～59歳の22.2%、29歳以下及び40歳～49歳が19.2%となっている。2次医療圏別にみると、他の医療圏に比べ出雲圏が29歳以下の占める割合が高く、隠岐圏では60歳以上の占める割合が高くなっている（図3-7）。

図3-7 薬剤師の年齢別割合

